下顎歯槽部に限局してみられたエナメル上皮腫の1例

佐藤実千江・木下靖朗・内藤聡一郎

A case of ameloblastoma localized in the mandibular alveolar region

Michie SATOH · Yasuo KINOSHITA · Soichiro NAITOH

Abstract: Ameloblastoma generally arises in the molar or premolar of the jaw and the mandibular angle, but rarely occurs in the alveolar region.

We report a case of ameloblastoma localized in the mandibular alveolar region.

A 41-year-old woman was referred to our hospital because of an abnormal color of her gingiva. A dental radiograph showed a radiolucent lesion with a comparatively well-defined border in the interalveolar septum between the right mandibular canine and the first premolar.

Biopsy was performed, and the histopathological diagnosis was ameloblastoma.

Under intravenous sedation, a marginal resection of the jaw was performed at the right mandibular canine and the first premolar region.

There has been no evidence of recurrence as of about one year after operation.

Key words: ameloblastoma (エナメル上皮腫), mandibular alveolar region (下顎歯槽部)

緒 言

エナメル上皮腫は歯源性腫瘍の中では比較的発生頻度が高く¹⁾, 下顎臼歯部から下顎角部に好発し²⁾, 広範囲にわたる無痛性の顎骨の膨隆をみる疾患として知られているが, 歯槽部に発生したものの報告は数例をみるにすぎない^{3~9)}.

今回われわれは, 43 歯槽部に限局してみられたエナメル上皮腫の1例を経験したので, その概要を報告する。

症 例

患 者: 41 歳 女性。

初 診: 1995 年 7 月 ■ 日。

主 訴: 「3」部唇側歯肉の色調異常。

既往歴: 特記事項なし。

家族歴: 特記事項なし。

現病歴: 1995 年 6 月上旬, 「3」部唇側歯肉の色調異常に気づき, 近在歯科医院を受診。色調異常の他, わ

写真1 初診時の口腔内写真

ずかに歯肉の腫脹がみられたため, 「43」部除石, 投薬をうけたが状態は変化せず, 同年 7 月 ■ 日, 紹介により当科初診となる。

現 症

全身所見: 体格は中等度, 栄養状態は良好であった。

口腔外所見: 特記事項なし。

口腔内所見: 「3」部唇側歯肉に粟粒大, 暗紫色の色調異常が認められ, 同部を中心にさきわめて軽度のびまん性腫脹, 圧痛が認められた。「3」は生活歯で打診痛はなく, 動揺は生理的範囲内であった(写真1)。

X線所見: 「4」, 「3」間の歯槽中隔に限局した, 2×8 mm 大, 楕円形の, 比較的境界明瞭な X 線透過像が

市立伊勢総合病院歯科口腔外科

(主任: 木下靖朗医長)

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Ise Municipal Hospital (Chief: Dr. Yasuo Kinoshita)

受付日: 平成 8 年 8 月 28 日

写真2 初診時のX線写真

写真3 術後10か月目の口腔内写真

認められた。4) 近心において一部歯槽硬線の消失がみられたが、隣接歯の歯根吸収は認められなかった(写真2)。

臨床診断：血管腫の疑い。

処置および経過：1995年7月■, 局所麻酔にて生検をかねて病変部の搔爬を行なったところ、エナメル上皮腫(濾泡型)の病理組織診断を得た。4) 歯根が一部露出しており、病変は口腔粘膜直下まで進展していた。同年8月■日、静脈内鎮静法にて43)を含む、下顎骨辺縁切除術を行った。病理組織検査の結果、摘出物中には明らかな腫瘍組織の残存はみられなかった。術後の経過は良好で、現在までのところ、再発はみられない(写真3)。

病理組織所見：上皮下の結合組織中にはエナメル器に類似した実質の上皮島が認められ、外側にはエナメル芽細胞に類似した円柱状の細胞が配列し、内方には星状細胞があり、エナメル髓に類似した構造を示していた(写真4)。

考 察

エナメル上皮腫は一般に鶏卵大以上で発見されることが多く²⁾、広範囲にわたる顎骨の膨隆をみる疾患として知られており、本症例のように顎骨に膨隆がなく、

写真4 生検時の病理組織像(H-E染色)

歯槽中隔に限局してみられることはきわめてまれである。われわれが渉猟し得たかぎりでは、文献上、原田ら⁸⁾の報告した大豆大のものが今までの最小の症例であり、本症例は、本邦においてこれまで報告されたものの中で最小のものであると思われる。

好発部位は下顎骨体部や下顎角部であり、歯周組織に発生する例は少ない⁵⁾。歯周組織に発生するものには、歯肉に発生する周辺性エナメル上皮腫と、歯槽骨や歯根膜に残存した歯源性上皮より発生するものがあり、中村ら⁵⁾は後者を便宜上、歯槽部エナメル上皮腫と名づけた。

周辺性エナメル上皮腫は一般にエプーリス状の腫瘍を呈し²⁾、病変部直下の骨にはときに圧迫吸収像のみられることはあるが¹²⁾、腫瘍による浸潤破壊像は少ないといわれている¹¹⁾。本症例は腫瘍の一部が口腔粘膜直下まで進展していたが口腔粘膜上皮は正常に保たれていたため、口腔粘膜に発生した周辺性エナメル上皮腫ではなく、後者の歯槽部エナメル上皮腫であると思われた。

歯槽部エナメル上皮腫の発生源は、歯槽骨や歯根膜内に残存した歯源性上皮が考えられる⁵⁾。歯根膜部より発生したと考えられるエナメル上皮腫の報告例は、海外で散見される程度で、本邦でも飯田⁴⁾、原田ら⁸⁾による報告があるのみである。飯田ら⁴⁾は腫瘍と歯牙との間に骨が認められないこと、腫瘍の中心は歯槽骨中にあり同部が発生部位と考えられることから、また、原田ら⁸⁾は歯槽硬線が腫瘍辺縁の一部と連続していたこと、病巣の中心が根尖部であったことなどの点から、各症例が歯根膜部発生であろうと推察している。本症例も、病変と4)との間に骨が認められない部分があること、歯槽硬線が腫瘍辺縁の一部と連続していることから、まれな歯根膜部に発生した症例と考えられるが、歯槽骨部に発生したものが歯根膜部に浸潤したとも考えられ、確定には至らなかった。

歯槽部エナメル上皮腫の治療法としては、エナメル上皮腫の性質上、周囲骨を含めての切除が必要となる⁴⁾。本症例では、切除された歯槽骨内に明らかな腫瘍組織の残存がみられないこと、術後約1年を経過し

た現在、再発を認めないことから、現時点では周囲骨の切除は十分であったと思われる。しかし、歯槽部発生例は浸潤傾向が強いと考えられ⁵⁾、再発する可能性があるため、今後長期にわたり、定期的に経過観察を続ける必要があると思われる。

結 語

今回われわれは、43例歯槽部に限局してみられたエナメル上皮腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加え、報告した。

本論文の要旨は第21回日本口腔外科学会中部地方会(1996年6月21日、金沢)において発表した。

引 用 文 献

- 1) 茅野照雄：エナメル上皮腫の組織由来について。口病誌 49: 333-357 1982.
- 2) 石川梧朗監修：口腔病理学Ⅱ。第4版，永末書店，京都，1990，462-480頁。
- 3) Sharp, G.S., Bullock, W.K., et al.: Oral Cancer and Tumors of the Jaws. New York, McGraw Hill, 1958, p269-290.
- 4) 飯田 修，小野富昭，他：歯槽骨に限局してみられたエナメル上皮腫の2例。日口外誌 29:

1600-1605 1983.

- 5) 中村典史，樋口勝規，他：エナメル上皮腫の臨床的，病理組織学的検索。日口外誌 32: 829-836 1986.
- 6) 佐藤洋哉，榎本武司，他：歯槽部に生じたエナメル上皮腫の2例(抄)。千葉医学雑誌 63: 59 1987.
- 7) 江上史倫，額賀康之，他：歯槽部に発生したエナメル上皮腫の1例(抄)。千葉医学雑誌 63: 59 1987.
- 8) 原田博紀，鹿渡靖子，他：下顎犬歯根尖部に限局してみられたエナメル上皮腫の1例。口腔腫瘍 5: 310-314 1993.
- 9) Munetaka NAITOH, Masaru SHIOJIMA, et al.: Ameloblastoma in the Inter-alveolar Septum. Oral Radiol. 8: 45-53 1992.
- 10) Lucas, R.B.: Pathology of Tumors of the Oral Tissue. 4th Ed, Churchill Livingstone, Edinburgh, 1984, p31-60.
- 11) Shafer, W.G., Hine, M.K., et al.: A Text-book of Oral Pathology. 4th Ed, Philadelphia, Saunders, 1983, p276-285.
- 12) 松田光悦：周辺性エナメル上皮腫。歯科ジャーナル 37: 615-617 1993.